

第12回 名古屋市アジア競技大会推進本部会議

次 第

日 時：平成31年1月7日（月）幹部会終了後
場 所：本庁舎2階 特別会議室

1 開会

2 議題

○第20回アジア競技大会の検討状況及び今後の取組について

○大会開催までの主な取組について

【参考】

第20回アジア競技大会の検討状況及び今後の取組について

1 組織委員会

(1) 検討状況

- ・組織委員会における評議員、理事等について検討、調整を実施

(2) 今後の取組

- ・第2回会議（平成31年2月開催予定）において、組織委員会の名称や目的、拠出割合、設立年度の事業計画等を協議
- ・平成30年度内を目途に評議員、理事を内定
- ・平成31年5月以降に一般財団法人として組織委員会を設立し、平成32年度の公益法人化に向けて準備・調整を実施

2 大会開催基本計画

(1) 検討状況

開催準備の各分野における基礎的な事項と大まかな準備スケジュールを示す大会開催基本計画の策定に向けて検討を実施

<参考>大会開催基本計画の対象分野【15分野】

大会概要、競技、式典・文化イベント、競技会場・施設（選手村、宿泊施設等）、要員、競技備品、輸送、情報システム、放送・報道、国際関係、国際儀礼（プロトコル）、資格認定、警備、広報、マーケティング

(2) 今後の取組

- ・平成31年11月頃を目途にOCA（アジア・オリンピック評議会）に提出
- ・大会の各分野（競技、選手村、輸送等）の運営計画を検討

3 競技会場

(1) 検討状況

- ・各競技会場については、市町村からの提案や競技団体の意向、新施設の整備計画等を踏まえ、再調整を実施（別添1「第20回アジア競技大会 競技会場の検討状況一覧表」参照）
- ・メイン会場となる瑞穂公園陸上競技場については、大会時に観客席最大35,000席を確保できるように改築を予定（別添2「教育子ども委員会説明資料 瑞穂公園の整備について」参照）

<参考>実施競技の基本的な考え方

- ① 2024年のパリオリンピックで実施される競技（開催都市の提案競技を含む。）
- ② アジアの5地域（中央アジア、東アジア、南アジア、東南アジア及び西アジア）における普及を考慮して決定される競技
- ③ 組織委員会が提案する最大2競技
- ④ OCAが提案する最大2競技

(2) 今後の取組

- ・競技会場の再調整を進め、平成31年夏頃に可能な限り会場を仮決定
- ・競技会場の改修の必要性や競技の運営について検討を実施

4 選手村

(1) 選手村後利用の検討

ア 検討状況

- ・メイン選手村となる名古屋競馬場跡地の将来のまちづくりを見据え、後利用基本構想（以下「基本構想」という。）の策定に向けた検討を実施
- ・平成30年7月より事業進出意欲がある民間事業者(11者)との民間研究会を設置し、施設の規模や配置、事業手法、選手村として使用する際の条件等について意見交換を実施（民間研究会は、期間を延長し平成31年3月まで実施予定）
- ・基本構想の策定にあたり、平成30年12月に学識経験者（7名）による第1回の有識者懇談会を開催し、まちづくりの方向性、課題等について専門的知見を踏まえた意見を聴取（別添3「第1回アジア競技大会選手村後利用基本構想有識者懇談会」参照）

イ 今後の取組

- ・平成31年夏頃まで有識者懇談会を継続して開催（全3回を予定）し、基本構想案を作成
- ・県民、市民からの意見を踏まえ、平成31年度中に基本構想を策定
- ・基本構想に基づき後利用事業者公募の手続きを開始

(2) 選手村の検討

ア 検討状況

- ・メイン選手村及び分散する選手村について、集合住宅等の施設を一時使用するための仕様や仮設建築物の工法及びコストについて検討を実施
- ・選手村の分散先について、ホテルや公共施設（研修所等）の調査を継続するとともに、公共施設（研修所等）を選手村として使用する際の仕様やコストの検討を実施

<参考>選手村に係る基本的な考え方

- メイン選手村（名古屋競馬場跡地）は、後利用施設を大会時に一時使用するとともに、その他必要となる施設を仮設で整備
- メイン選手村から離れた競技会場については、ホテルや公共施設（研修所等）を選手村として使用する等、選手村を分散

イ 今後の取組

- ・後利用施設を大会時に選手村施設として一時使用するための条件を整理
- ・分散候補地での選手村施設の配置を検討

5 広報・PR

(1) 検討状況

- ・各種イベントでのブース出展等によりPRを実施
- ・将来、さまざまな形で大会に参画することが期待される小中学生に対し、大会への理解を深めてもらうためにパンフレットを配布

＜参考＞平成30年度におけるイベント出展等の実績（参加者数は主催者発表）

イベント名等	出展期間	開催場所	参加者数
韓国フェスティバル2018in名古屋	4/14～4/15	久屋大通公園久屋広場	—
ミッドランドチャリティースカイラン	4/30	ミッドランドスクエア	1,060人
第11回ナゴヤランナーズカップ2018in大高緑地	5/27	大高緑地公園	268人
オアシス21 スポーツ遊・演・知2018	6/2～6/3	オアシス21	70,000人
刈谷市総合運動公園スポーツフェスティバル2018	6/10	刈谷市総合運動公園	—
テレビCMを活用した告知	7/6～8/30	—	—
2018ジャカルタ・パレンバン アジア大会ファンラン	7/7	名城公園	111人
第1回アジアマスターズ水泳選手権大会	7/12～7/13	日本ガイシアリーナ前広場	—
「真夏のオアシス大作戦」と連携したPR	8/11～9/2	オアシス21	—
「ナナちゃん」人形のディスプレイ	8/15～8/21	「ナナちゃん」人形前	—
在名テレビ局制作番組内でのPR	8/19	—	—
第37回OCA総会	8/19	ホテル ムリア セナヤン ジャカルタ	—
第18回アジア競技大会JOCレセプション	8/20	ホテル ムリア セナヤン ジャカルタ	488人
第64回名古屋まつり	10/20～10/21	名古屋テレビ塔北側バス駐車場	15,200人
名古屋空港「空の日」フェスタ2018	11/11	あいち航空ミュージアム	—
スポーティブ・ライフin瑞穂	11/23	パロマ瑞穂スポーツパーク	6,375人
第23回ANOC総会（2018/東京）	11/27～11/30	グランドプリンスホテル 新高輪・国際館パミール	—

(2) 今後の取組

- ・各種イベントでのPRを継続して実施（1/13西春日井二市一町合同消防出初式@県営名古屋空港、3/9マラソンEXPO@ナゴヤドーム）
- ・組織委員会設立後、大会のスローガンやエンブレムの作成、公式ホームページの制作の他、大会の開催意義・効果をマスコミやスポンサー候補企業等にアピールするための「ファクトブック」の制作に着手

6 レガシー

(1) 検討状況

大会を通じて市民にのこしたいレガシーとその実現に向けた主な取組を明らかにしたレガシーに関するビジョンを、学識者で構成される有識者懇談会の意見等を踏まえ、次期総合計画と整合を図りながら一体的に検討

<参考>ビジョンの内容

本市が目指すまちの姿を「健康・地域活力」「誇り・魅力」「学び・国際理解」「大会モデル・先端技術」の4つに整理し、実現に向けた取組の方向性等を記載

(2) 今後の取組

- ・平成31年5月頃まで有識者懇談会を継続して開催（全5回を予定）し、ビジョン案を作成
- ・市民からの意見を踏まえ、次期総合計画の策定に合わせて平成31年秋頃にビジョンを策定

7 アスリートの発掘・育成【新規事項】

(1) 検討状況

県、市（総務局・教育委員会）、県体育協会及び市教育スポーツ協会で構成するワーキンググループを設置し、事業の骨子やスキームを検討

(2) 今後の取組

- ・国際大会で活躍できる地元選手の発掘、育成を図るため「あいちトップアスリートアカデミー（仮称）」事業を開始（小学4年生以上を対象に、キッズ、ジュニア、ユースの別に計6クラス（各クラス30名程度）で、最大180名を募集予定）
- ・県、市及びスポーツ関係団体で設置する推進本部が事業主体となり、県からの負担金で事業を実施
- ・本市は、事業実施時の会場提供や市内小中学校への事業周知等について協力

<参考>事業の概要

- キッズ（小学4年生・5年生）及びジュニア（小学6年生から中学2年生）は、競技体験等を通じて各自の適性に応じた競技を導き出し、ユース（中学生以上）は、競技転向により国際大会で活躍するトップアスリートを育成
- 平成31年7月より事業を開始し、7月に発掘プログラム（選考会）を、10月から育成プログラム（競技体験、スポーツ教養プログラム等）をそれぞれ実施（育成プログラムは平成32年6月末まで）
- 事業は、1年間で1サイクルとして毎年実施

8 その他（報告事項）

（1）第18回アジア競技大会（@ジャカルタ・パレンバン）に係る調査等について

- ・平成30年8月19日（日）に開催された第37回OCA総会で開催都市契約を締結
- ・第20回アジア競技大会の会期が2026年9月19日（土）から10月4日（日）までの16日間に決定
- ・大会運営全般について調査するとともに、競技会場、まちづくり等、本市独自の視点での調査を併せて実施（別添4「第18回アジア競技大会（ジャカルタ・パレンバン）の状況」参照）
- ・大会調査で得られた情報を大会開催基本計画等へ反映

（2）日本パラリンピック委員会の市長訪問について【新規事項】

平成31年1月15日（火）に日本パラリンピック委員会（JPC）の会長及び副委員長が来訪し、2026年に予定される第5回アジアパラ競技大会の開催を要請

<参考>アジアパラ競技大会の開催実績（予定を含む）

回	開催年	開催都市	参加国・地域数	参加者数	競技数
第1回	2010年	中国・広州	41	3,798人	19
第2回	2014年	韓国・仁川	41	3,847人	23
第3回	2018年	インドネシア・ジャカルタ	43	未発表	18
第4回	2022年	中国・杭州	詳細未定		

大会開催までの主な取組事項について

区 分	平成30年度	平成31年度	平成32年度～平成38年度
開催都市契約	修正協議 ※ 8月19日締結		
組織委員会	設立準備委員会設置	設立	公益法人化
大会開催基本計画	大会開催基本計画の策定	OCAに提出	適宜見直し ↓ 各分野の計画検討、策定 → 各分野の計画の具体化
競技会場	競技団体等との調整	競技会場仮決定	OCA・AF (アジア競技連盟) との本格協議 (競技・種目・会場調整) → 実施競技・競技会場OCA承認 改修のための調査・計画 → 改修 → 仮設整備 → テスト大会
選手村	後利用基本構想の策定 民間研究会 有識者懇談会	分散計画策定	整備事業者選定 → 後利用整備 選手村整備
広報・PR	開催周知	大会スローガン・エンブレムの制作	全国・アジアでの開催周知や盛り上げ 大会エンブレム等を活用したPR
レガシー	ビジョンの策定	ビジョンに基づく施策の実施	
アスリートの発掘・育成	事業の検討	実施	

第20回アジア競技大会